

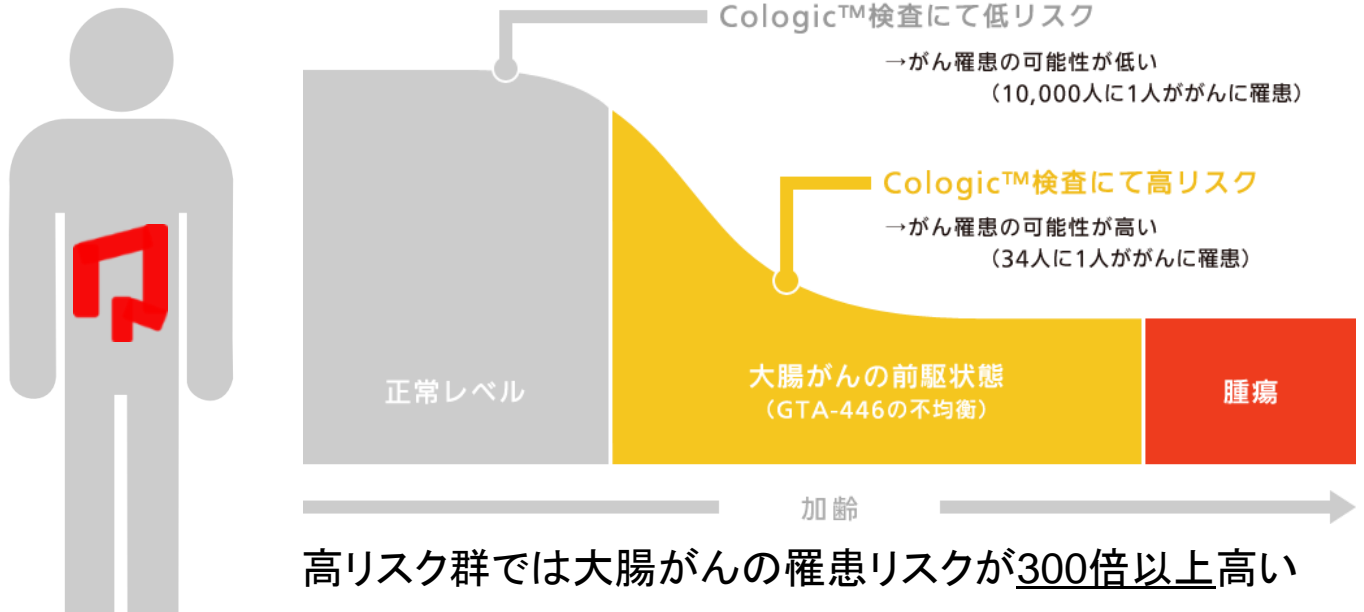
# 大腸がんのリスク検査 Cologic™ (コロジック)

## < Cologic™ (コロジック)検査とは？ >



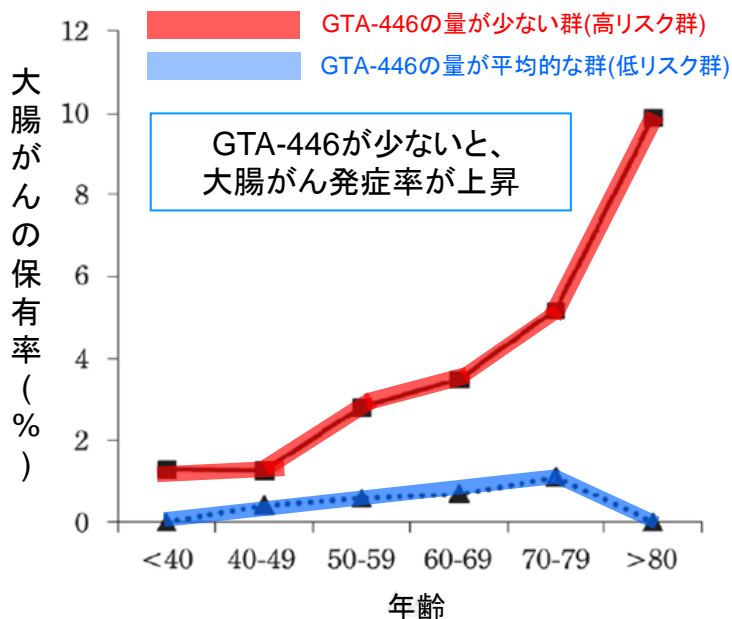
大腸がんのリスクを調べる血液検査です。

大腸がん患者の血中で特異的に減少する、長鎖脂肪酸”GTA-446”という物質を測定し、大腸がんのリスクを判別しています。採血のみの簡単な検査で、早期治療へのきっかけとして利用頂くことが可能です。



## < Cologic™ 検査の特徴 >

GTA-446は炎症を抑えたり、細胞のアポトーシスを促進することで、体を防御する働きがあると考えられています。GTA-446が少ない(=高リスク)の状態が長く続くと、大腸がんの発症率が高まると考えられます。全ステージの大腸がんに対して**感度86%**で判別可能です。



Cologic™ 検査の受診で  
早期発見が可能になります

高精度なリスク判定  
採血のみで手軽に検査

早期に精密検査実施

早期発見・早期治療へ

Cologic™ 検査をスクリーニングに用いることで  
大腸がんの早期発見・早期治療の可能性を高めることが可能です。

# <報告レポートイメージ>

検査はGTA-446の濃度解析を行い、A3見開きの紙面レポートにて報告致します。結果は高リスク、低リスクにて判定を行います。報告書には測定物の長鎖脂肪酸GTA-446に関しての解説と大腸がんを予防するための生活習慣に関するヒントを記載しております。高リスクの方に推奨している精密検査の内容を紹介しております。

受診ID: 9950 性別: 男性  
受診日: 2017/6/1 年齢: 50

**大腸がんリスク判定結果**

Cologicテストの結果、あなたのGTA-446の値は **正常値未満** で大腸がんのリスクは **高リスク** と判定されました。

GTA-446測定値	リスク判定結果	正常値範囲
1.4 μmol/L	高リスク	男性 低リスク 2.4μmol/L以上 高リスク 2.4μmol/L未満 女性 低リスク 1.8μmol/L以上 高リスク 1.8μmol/L未満

**総合評価コメント**

今回の検査結果ではGTA-446の数値が低下しており、大腸がんのリスクは高い状態であると判定されました。必要に応じて専門医の受診や精密検査の受診をご検討下さい。

**◆GTA-446濃度と大腸がんのリスクについて**

GTA-446は大腸がん患者で特異的に減少することが明らかにされており、高リスク群では低リスク群に比べ約300倍のリスクを有していることが分かっています。なお、GTA-446値は一度減少すると回復しないとされています。

**大腸がんを予防するために**

リスク因子を無くしましょう。

- 食生活**: そのメカニズムは明確にはなっていませんが、赤身肉(牛・豚・羊の肉)や加工肉(ベーコン、ハム、ソーセージ)の過剰摂取は大腸がんのリスクを上昇させるとされています。
- 喫煙**: 喫煙は大腸がんの発症危険度を増加させることが報告されています。また喫煙自体も、動脈硬化やその他のがんのリスク要因とも考えられています。
- アルコール**: 過度なアルコール摂取は大腸がんのリスク要因と考えられています。1日1回以上飲酒する方は、お酒を飲まない人に比べて、2倍以上大腸がんのリスクが高まるとされています。
- 肥満**: 肥満は大腸がんの発症危険度を増加させることが報告されています。男性ではBMI(肥満指数)が25以上の方では、それ以下の人に比べてリスクが2倍以上高まるとされています。

**◆Cologic検査で高リスク判定だった方に**

大腸がんは早期発見できれば、「治るがん」とも言われています。本検査で高リスク判定だった方には必要に応じて専門医の受診や精密検査の実施をおすすめしています。

**大腸内視鏡検査**

肛門から、長さ11-13mm程度の細長く、軟らかいカメラを入れて、大腸全体(状況により小腸の一部まで)を観察する精密な検査方法です。大腸がん、大腸ポリープ、大腸憩室症、炎症性腸疾患などの大腸、直腸の疾患の発見に役立っています。

**注腸造影剤検査**

お尻から硫酸バリウム(造影剤)と空気を注入し、大腸の中の病変を撮影する検査です。大腸末端部まで内視鏡が到達しなかった方や腹部の手術による癒着のため内視鏡挿入時の痛みが強い方に用いられることがあります。

**大腸3D-CT検査**

X線とコンピュータを使用し大腸の画像を撮影する検査です。内視鏡を挿入せず大腸の鮮明な画像を撮影できるため、「バーチャル大腸内視鏡検査」とも呼ばれます。内視鏡では見落としがちな大腸のひだの裏などの病変の観察が優れています。

検査項目名	Cologic™ (コロジック)
検体量	血清 0.5 mL
容器	血清分離剤入り容器
保存(安定性)	冷蔵
報告期間	30日
測定・解析機関	MED-LIFE DISCOVERIES LP (MLD)
検査方法	質量分析法
備考	Cologic™は大腸がんのリスクを判定する保険未記載の検査です。Cologic™の結果のみで大腸がんの有無を判定する検査ではありません。他検査の結果と併せて今後の検査・治療方針の検討にお役立て頂くことをお勧めします。

参考文献:

- Shawn A Ritchie ,et al, Low-serum GTA-446 anti-inflammatory fatty acid levels as a new risk factor for colon cancer. Int J Cancer. 2013 Jan 15;132(2):355-62. doi: 10.1002/ijc.27673. Epub 2012 Jun 26.
- Shawn A Ritchie ,et al, Human serum-derived hydroxy long-chain fatty acids exhibit anti-inflammatory and anti-proliferative activity. J Exp Clin Cancer Res. 2011 May 17;30:59. doi: 10.1186/1756-9966-30-59.
- Shawn A Ritchie ,et al, Reduction of novel circulating long-chain fatty acids in colorectal cancer patients is independent of tumor burden and correlates with age. BMC Gastroenterol. 2010 Nov 29;10:140. doi: 10.1186/1471-230X-10-140.
- Shawn A Ritchie ,et al, Reduced levels of hydroxylated, polyunsaturated ultra long-chain fatty acids in the serum of colorectal cancer patients: implications for early screening and detection. BMC Med. 2010 Feb 15;8:13. doi: 10.1186/1741-7015-8-13.

